

「DDHの航空機運用能力向上に係る調査研究」



※括弧書きの日本語訳は文献等においても対応する日本語の実績がないため、本報告書用に補足したものである。

4.1 前提条件

本調査研究は、米軍の後方支援実施を目的として、「いずも」型に施すべき所要の改修工事の工期と工費を見積もることを目的としていることから、調査検討に当たっての前提条件として、当該機の運用を次のとおり設定した。

- (1) 対象艦は「いずも」型とする。
- (2) 短距離滑走発艦 (Short Take Off 以下 STO) で発艦する。
- (3) 米軍 F-35B が垂直着艦 (Vertical Landing 以下 VL) で着艦する。
- (4) 機数は、1機を想定する。
- (5) 着艦後、仮係止した後、けん引車等によって飛行甲板右舷の駐機スペースに係止する。
- (6) 航空機用昇降機を使用して格納庫に移送し、係止する。
- (7) 整備が必要な場合、必要な整備器材及び補用品は、岸壁で搭載するか、ヘリコプタ等で空輸したものを使用する。
- (8) 燃料等の最小限の補給を実施する。

4.2 航空機の調査

4.2.1 調査範囲

本調査にあたっては、表 4-1 の検討に必要な情報を体系的に、遺漏なく、調査できるように、検討が必要となる運用レベルを表 4-3 に示すように整理し、調査範囲の明確化及び優先順位付けを行うため、検討項目別の所要情報を別紙第 7 のとおり整理した。

表 4-3 F-35B の運用レベルの分類

運用レベル	内容
Level-1	発着艦 (STOVL)、臨時
Level-2	Level-1+最小限の補給
Level-3	Level-2+格納
Level-4	Level-3+整備 ※いわゆる搭載
Level-5	Level-4+連続運用

「検討項目別の所要情報表」では、臨時の発着艦から連続運用 (常時運用) までをレベル分けしたが、次の理由から、本調査研究では Level-1~3 までを調査の対象とした。(ただし、本調査の中で知り得た Level-4~5 の所要情報の一部も、将来の検討の参考となりそうな内容も記述した。)

- (1) 米軍の後方支援実施を想定していること。(Level-5 は想定外)